



発行 越谷市立病院
 発行人 院長 丸木 親
 編集 院内情報誌編纂委員会
 連絡先 〒343-8577
 越谷市東越谷10-32
 電話 048-965-2221(代)
 FAX 048-965-3019
 発行月 令和5年(2023年)1月
 (No.54)

「インフルエンザ感染症について」

呼吸器科
 副科部長

かどや こうたろう
 門屋 講太郎

インフルエンザは、インフルエンザウイルスが上・下気道に感染して発症する急性感染症です。全ての年齢層に感染し、世界中で繰り返し流行しています。日本では11月下旬から発生し、12月下旬に小ピークを迎えます。翌年の1月から3月頃に増加しピークを迎えて4月には収束する傾向にあります。全世界では毎年30万から50万人が重症化し、呼吸器症状により29万から65万人の死者が出ていました。感染経路は飛沫感染で、潜伏期間は1日から最大7日

です。症状は急速に出現する高熱、悪寒、頭痛、倦怠感、筋肉痛を特徴とし、咽頭痛、鼻汁、咳、痰などの気道症状を伴います。

高齢者の最多の合併症は肺炎で、致死的になり得るので注意が必要です。乳幼児は稀ですがインフルエンザ脳症が重篤で、日本では毎年100人から200人程度が発症します。後遺症が残る可能性もあり、疑いがあれば医療機関を受診する必要があります。

新型コロナウイルス渦以前、インフルエンザの感染者数は1シーズンで約1000万人でした。しかし新型コロナウイルス禍以降は激減し、感染症研究所の推計では、2020年から2021年は約1万4000人、2021年から2022年は約3000人でした。元々インフルエンザは熱帯・亜熱帯域から人の移動で流れ、日本では拡大環境が整う冬期に流行すると考えられてきました。それが新型コロナウイルス対策で人流や接触が制限されたことが減少の要因と考えられます。

しかし今年は3年ぶりに流行するおそれがあると警戒されています。水際対策の緩和、インフルエンザの免疫獲得者の減少などが要因と推察されます。現在進行形で再度急増している新型コロナウイルスとの同時流行で、医療機関のひっ迫、死者数の増加などが懸念されます。

これに備え、オミクロン株対応のワクチンとインフルエンザワクチンの接種を推奨します。また手指消毒やマスク着用、換気などの基本的な感染対策は大切です。発熱時の対応については厚生労働省が指針を示しました。重症化リスクがある方はかかりつけ医を受診し、双方の検査を受け、診断に応じて適切な対応を受ける必要があります。重症化リスクの低い方は、国に承認された抗原検査キットで新型コロナウイルス感染の有無を確認し、陰性の場合は電話やオンライン診療、かかりつけ医などを通じてインフルエンザかどうか診断を受け、必要に応じて抗インフルエンザ薬の処方を受けるという流れです。ぜひご自身でも厚生労働省のホームページをご確認頂ければと思います。



「冬の小児感染症について」

小児科

遠藤 佳子
えんどう よしこ

現在新型コロナウイルスが季節を問わずに流行しておりますが、新型コロナウイルス流行以前より秋から冬にかけて流行する小児の感染症には、RSウイルス感染症、ノロウイルス感染症、ロタウイルス感染症があります。

RSウイルス感染症では、1歳までに70%、2歳までにはほぼ100%の子供がかかると言われております。生涯にわたり何度も感染しますが、2回目以降の症状はあまり重症化しません。発熱を伴う上気道症状が主症状で、重症化すると呼吸困難で入院することも多く、小児医療にとつて非常に厄介なウイルスです。中耳炎の合併が多く、喘息になりやすい子はその後も長い間ゼーゼーしやすいです。

ノロウイルスとロタウイルスは感染すると胃腸炎を引き起こすウイルスです。ノロウイルスは11月頃から流行し、突然吐いて、下痢症状が出てくるものが多く、迅速キットもあります。時に大流行を起こすことがあります。特に集団で起こるのは、嘔吐物の掃除が不十分で、それが乾燥してウイルスが空气中に飛び散ることが原因と考えられています。治療は脱水の治療で、嘔吐が続く場合は点滴や入院が必要となる場合があります。

ロタウイルスは2月頃から徐々に多くなります。高熱が出て激しい嘔吐、水様の白っぽい便が続きます。脱水になりやすく、点滴や入院が必要になることが多いです。ノロウイルス同様、感染力は強く、便や嘔吐物から感染します。ワクチン接種も導入され、重症化する患者さんは減ってきていますが、ごく稀に脳炎、脳症、無熱性の痙攣を引き起こすこともあります。

いずれのウイルス感染も、自然に軽快していくことがほとんどですが、経口摂取不良、長引く発熱、症状を認める場合は再受診が必要となるので注意してください。

7-2病棟 看護師長

横川 良子
よしかわ りょうこ

新型コロナウイルス禍となつてから3年目の冬を迎え、不安を抱えながら日々過ごしている方が多いと思います。また、保育園や幼稚園、学校がいつ閉鎖になるのか、自分の子供も感染してしまうのか、不安が絶えないと思います。そのような状況でもマスク、手洗い、うがいの感染予防策を行うことで防いでいる感染症も多いので続けてほしいと思います。これから冬を迎えるにあたり、2つの感染症をご紹介します。

まず、RSウイルス感染症です。生後1ヶ月から4歳の時期に感染しやすいと言われております。症状は発熱、鼻水、咳、ゼーゼーとした呼吸、肩を上下させる息苦しい呼吸です。この感染症は大人が感染しても風邪症状で治りますが特に新生児、乳児は重篤になることがあり、治るまでに1週間ぐらいかかります。受診の目安としては左記のとおりです。

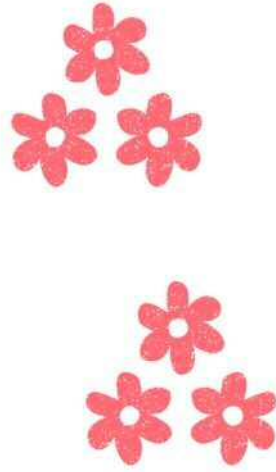
- (1) 生後3ヶ月以内の発熱
- (2) 咳や鼻水で苦しそうにしている
- (3) 背中や首の後ろを冷やしても下がらず、ぐったりしている
- (4) 母乳、ミルクが飲めない

このような症状があるときは早めに受診しましょう。

次に感染症胃腸炎としてノロウイルス、ロタウイルスがあります。症状は下痢、嘔吐、発熱がありますが便に違いがあり、ノロウイルスは水様性の下痢に対し、ロタウイルスは白い便です。つばい臭いのが特徴です。

ノロウイルスは全ての年齢層でかかり、1日〜3日で症状は落ち着きますがロタウイルスは3歳未満に多く、落ち着くまでには5日〜7日かかります。下痢止めはウイルスを体内に留める作用があり、回復を遅らせることもあります。重篤な場合もあるのでかかりつけ医に相談してください。ウイルスに感染したら脱水を防ぐことと、接触で感染が広がりますので嘔吐物やオムツの処理、洗濯を適切に行いましょう。

また、必ずマスク、手袋をしてください。嘔吐物はティッシュで周りを囲み、中心に集めすくいあげるようにしてビニールに入れましょう。オムツはビニール袋に入れて専用のゴミ箱に入れましょう。洗濯はハイター(2000mLにハイター10mL)をバケツに作り、もみあらいをして1時間浸した後洗濯機で洗いましょう。



「この冬のインフルエンザ対策」

感染管理認定看護師

おがわ まきひろ
小川 昌洋

インフルエンザは「インフルエンザウイルス」によって起こる感染症で、例年11月から3月にかけて流行します。しかし、新型コロナウイルス感染症が発生して以降は、2シーズン続けて日本国内におけるインフルエンザの流行はありませんでした。

しかし、国際的な移動制限の緩和や国内における意識、行動制限の緩和等により、この冬はインフルエンザの流行が懸念されます。

【インフルエンザの感染経路】

- ・咳やくしゃみのしぶきによる飛沫感染
- ・手や物を介しての接触による接触感染

【インフルエンザを流行させないために】

- ・人混みは控え、外出時は不織布製のマスクを着用しましょう
- ・こまめに手洗いをしましょう
- ・(手指消毒薬や流水と石けんによる手洗い)
- ・十分な休養と、バランスのとれた栄養摂取を心がけましょう
- ・水分を十分に補給しましょう
- ・乾燥しやすい室内は、適度な湿度(50%から60%)を保ちましょう

※インフルエンザ対策を行うことで、新型コロナウイルス対策にもなります

【インフルエンザにかかったら】

- ・同居する家族との接触はなるべく控えましょう
- ・(特に重症化しやすい高齢者との接触)
- ・部屋の換気を心がけましょう
- ・医療機関から指示があった期間の外出は控えましょう

★初診時選定療養費の改定について★

当院では、医療の機能分化を促進する観点から、他の医療機関等からの診療情報提供書(紹介状)をお持ちでなく直接来院された初診の方について、初診料とは別に「初診時選定療養費」の負担をお願いしております。このたび、さらなる機能分化を進めるため左記のとおり改定します。

【変更前】令和4年12月まで

3,900円(税込)

【変更後】令和5年1月より

4,950円(税込)

◇編集後記◇

院内情報誌編纂委員長

おばさわ はなこ
尾羽澤 英子

新年明けましておめでとうございます。

新型コロナウイルスによる最初の緊急事態宣言が発令されて3年が経ちました。ロシアの戦争も相まってガス代や電気代、食料品など世界中に多方面で影響があり、人類は良くも悪くもみんなつながって地球はかけがえのないみんなの星であるところづくし思い知らされました。感染症も自分だけ予防していても感染の広がり抑えられないし、重症化しなければ良いと侮ってはいけません。

2023年には新型コロナウイルスも気候変動も、戦争も少しでも良い方向に進む事を祈願します。